

# オアシス通信



## 在宅介護の心構え



齊藤姉講師にセミナー

兄弟会主催の在宅介護セミナーが二月十九日午後、岐阜純福音教会で開かれました。講師は齊藤登美枝姉で、医療現場の婦長などを経て現在は名古屋医専教官をしていられます。どのように死に向き合い、介護する時に心得ておくべきことを専門的知識から分かりやすく話してくださいました。

(講演の要旨)  
自宅で最期まで過ごすことが国の方針になりつつあります。病院のベッド数が少なくなり将来、一・三人で一人の老人を支える時代になりそうです。大きな病気をして退院したらケアマネージャーに、今後どのような生活を送ることが出来るのか相談して、いわゆる終活について考えていくべきでしょう。

人は死を迎えるにあたり、まず「怒り」、次に「不安」になり、「うつ」、「あきらめ」へと移り、最後に死を受け入れる「受容」へと変えられていきます。その中で出来るだけ夢をかなえていける過程があれば、生きている喜びに繋がるのではないかと思います。特に癌になって、痛みが増してきた時、副作用の伴うモルヒネを使いますが、いいホームドクターに出会えると、痛みが緩和され、副作用がなく、快適に過ごすことができます。

死は大騒ぎする様なことではなく、自然の生活の中のこととして捉えるべきです。「死に目に会えなかった」と後悔する様なことではなく、むしろ存命中に楽しく接すること



### 韓国チームと交わり

2月15日の水曜聖研に韓国金海市の教会から、13名が来て下さり、賛美と証しを下さいました。関西空港から、JRで4時間かかったそうです。関西国際空港から岐阜までの道のりは、ソウルから釜山までのように遠かったとのことでした。外国での電車の長旅、本当にお疲れさまでした。ホットクを作ってくださいました。(山田起弘)

### ビジョン21開く

二月十二日の午後、数年ぶりに「ビジョン21」の時を持ち、二十四名の参加者が五つ

が在宅介護では大切なことであります。  
ギデオンの協会の岐阜支部長の家田利一郎兄が、二月十九日の礼拝に出席され、ギデオンの協会の働きを紹介してくださいました。また、次女を出産した奥様が倒れた時に「どんな試練にも耐えうる力、支え得るバックボーンが必要だと、痛感しました。それが信仰を求めた動機となった」と証しされ、一九六〇年の特伝でアメリカ人宣教師のメッセージに「神のふところ」に飛び込もうと決心しました」と主の救いを語られました。

### 恵みに包まれ献児式



二月五日に渡邊勇志兄・美雪姉の長男、流香君の献児式が行われました。流香君が主に守られ成長でき、渡邊家の祝福になるようにお祈りしましょう。

のグループに分かれ、教会の将来を考え、活発に夢を語り合う時を持ちました。参加できなくて、前もって配布されたアンケートで答えて下さった方々もありました。今後の教会の歩みに生かしたいと思

(牧師)